



ぷくぷく
 発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所
 旭川市東旭川北1条5丁目9番8号
 ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>
 お問い合わせ・お申込みは... フリーダイヤル ☎ 0120-233746
 shimomura
 旭山シリーズ 80
 H28. 1. 9

その魅力と癒しの空間、歴史を探るシリーズ 80

靈気に満ちた厳冬の旭山、真っ白な雪が生きてし生けるもの全てを覆いつくし、モノトーンの世界を演出しています。吐く息の白さが辺りを包む空気の冷たさ。風花舞う原風景の中に佇むと、白銀と静寂の中にいる自分が「無」の世界に迷い込んだように感じます。守護神旭山と共に、元旦を迎えることができました。今年もどうぞ宜しくお願い致します。さて、旭山の生き物達は、この厳冬期を如何にして過ごすのでしょうか。百戦錬磨のつわもの達、様々な方法で春を迎えるようです。

フデリンドウ (筆電胆=リンドウ科)

青紫色の妖精と云われる極小のリンドウですが、ここ3～4年巡礼の路では見かけることが少なくなりました。林道沿いで日当りの良い斜面が発見のポイントとありますが、どうも素人判断では前年の晩秋に芽を出して、深い雪に守られ次の年に開花する種類もあるのではないかと考えているのですが・・・？ 昨年は落ち葉の中で随分見かけましたが、もしこれがフデリンドウの芽だとしたら、今年はしばらくぶりにフデリンドウの可愛らしい姿に出会えそうです。深い雪に覆われる前に、もう春の準備がされているのですね。



ミズバショウ (水芭蕉=サトイモ科)

早春を代表する水芭蕉、水面に映えるあの白さが魅力なんです。その後の姿については案外知られていないようです。盛夏を過ぎる頃に背丈1m以上に育ち、大きな葉をこれ見よがしに広げています。そして、霜が降りると一気に萎れて枯葉となります。普通はここで越冬すると思われがちですが、11月降雪の季節にこの場所を訪れ根元の枯葉を剥ぐと既に芽吹いているのです。氷が張った面からグリーンの葉をスクッと出していました。寒い冬をどう過ごすかに思案している私達に「皆さんの心を揺さぶる花をお見せするには、枯れた今が勝負なんです。」と晩秋に準備です。



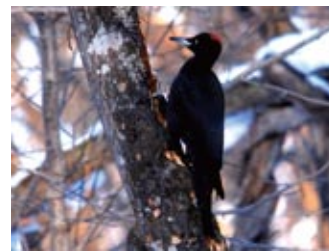
アキタブキ (秋田蓆=キク科)

田んぼの畦道を駆ける子供達の声がかどます季節、春のステージを演出するフキノトウ。この頃に顔を出すものと思われていますが、実は秋に準備完了していると聞かされ、熊獲名人と山に入りました。谷川沿いの湿地帯を探っていると、落ち葉の下から小型ラグビーボール状の蕾が出てきました。袋に詰めて持ち帰り、刻んで酢物にして食べさせて頂いたのは言うまでもありません。香りの強い「これぞフキノトウ！」でした。おそらく彼らは冬の雪を「わが身を守ってくれる助っ人」として捉え、厳寒期に布団の役を果してくれる深雪に感謝しているのではないかと考えています。ものは考えようですね。家の除雪で体力作りに挑戦・・・？一石二鳥のグッドアイデア・・・そこがなかなか・・・？



クマガラ (熊啄木=キツツキ科)

特別天然記念物、絶滅危惧種に指定されている鳥が、何と旭山で再度写真に撮られました。日本野鳥の会旭川支部役員の田村さんが鮮明な映像を届けてくださいました。全身真っ黒で頭の先が真っ赤、カラスほどもある鳥でキツツキ類の中では最大のもので、直径25cm程の枯れ木に寄り添って一生懸命突いていましたが、餌をとっていたように思えます。田村さんの話によると他にもいるようで、もし番[つがい]で旭山に来ているのなら、来春営巣の可能性があるとのことです。自然の豊かさを象徴する鳥クマガラが旭山で子育て・・・！そんな喜ばしい便りが、ヒョットすると聞かれる年になるかもしれません。寒さをものともせず、餌を求めて飛び回る元気者もいます。



ハクサンシャクナゲ・？ (白山石楠花=ツツジ科)

大雪山系の山々には、高山帯ではキバナシャクナゲが繁茂し、すそ野ではこの花が育っていると言われています。町内の方から、「うちの山で採ったシャクナゲだ」と頂きました。自生していたシャクナゲが、旭山にもあったのではないかと探し回っていたのですが、今までのところ一本も発見できませんでした。しかし、微妙な場所で見つかりました。それが写真の映像です・・・？間違いなく葉はシャクナゲです。笹の生い茂った斜面に弱々しく生えているのです。人の手によるものか・・・自生していたものか今のところ謎です。どなたか旭山でシャクナゲを見た方がいませんか。情報をお待ちしています。

